

## 平成27年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成28年3月

姫路市（兵庫県）

○計画期間：平成27年4月～平成32年3月（5年0月）

### I. 中心市街地全体に係る評価

#### 1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成27年3月27日に第2期目となる中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人々が行き交いまちの鼓動が聞こえる城下（まち）」を基本テーマに、「行きたい城下（まち）」「にぎわう城下（まち）」「住みたい城下（まち）」「市民が主役の城下（まち）」の4つの基本方針のもと、同計画に掲げる43事業に取り組んでいる。

本市の中心市街地をめぐる現状として、約5年半にわたり大天守の保存修理事業を実施してきた世界文化遺産・姫路城が平成27年3月27日にグランドオープンし、年間来城者数が過去最高の286万人となるなど、国内外より多くの方が訪れている。また、前計画で展開したキャストィ21 エントラスゾーン整備事業等により、姫路駅周辺では、姫路の玄関口にふさわしい北駅前広場の整備が完了するとともに、キャストィ21 コアゾーンBブロックの整備により、新たにシネマコンプレックスを核とした商業施設がオープンしたことで、姫路駅周辺が、市民や観光客の憩いと交流の場として賑わっている。

これらにより、街なかの魅力が更に高まったことで、姫路駅周辺エリアでは、マンションの建設が進められるなど、民間投資が活発になるといった好循環が生まれている。一方、商店街の空き店舗数については、新規出店で創業がある一方で、退店もあり、総数では改善が見られないなど、姫路駅周辺の賑わいを周辺の商店街エリアまで広げる取り組みや工夫が必要であると感じている。また、長年、市民に親しまれてきた商業施設（姫路フォーラス）や映画館が相次いで閉館するなど、中心市街地を取り巻く環境は、依然として厳しい状況であることには変わらない。

引き続き、姫路駅東に位置するキャストィ21 コアゾーンA・Cブロックやイベントゾーンをはじめ、姫路駅から姫路城までをつなぐ大手前通りの再整備工事に着手することから、今後も一層、市民や民間事業者との連携を深めることで、ハード・ソフト両面から都心部の賑わいと活力の増大を図っていく。

#### 2. 平成27年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

姫路駅周辺整備事業の進展により周辺エリアでは、民間マンションの建設が進められるなど、民間投資が活発になった点は評価できる。ただし、商業施設が閉館するなど、中心市街地を取り巻く環境は依然として厳しい中、今後も、キャストィ21 コアゾーン（A・Cブロック）やイベントゾーンで様々な施設の建設が計画されているが、中心市街地の賑わい創出および回遊性の向上を継続させるためにも、域内で活動する各団体等がより一層連携し、一体となって情報発信や事業等を展開する体制を構築する必要がある。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
新たな魅力の創出と移動環境の向上による来訪者数の増加	歩行者・自転車通行量	63,639 人/日 (H22～25 平均値)	82,000 人/日 (H31 年度)	73,277 人/日 (H27 年度)	—	①
新陳代謝の促進による街なか(商店街)の活性化	空き店舗数	36 店舗 (H25 年度)	28 店舗 (H31 年度)	36 店舗 (H27 年度)	—	②
多世代が快適・便利に暮らせる居住環境の向上	居住者数	8,797 人 (H25 年度)	8,894 人 (H31 年度)	9,079 人 (H27.12)	—	①
市民が躍動できる仕組み・体制の構築	公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数	286 日/年 (H25.9～H26.8)	321 日/年 (H31 年度)	384 日/年 (H27 年度)	—	①
(補完指標)	中心市街地に対する市民の評価	42.7% (H26年度)	50.0% (H31 年度)	平成 29 年度フォローアップ		

#### <取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」については、約 5 年半にわたって大天守の保存修理事業を実施してきた姫路城のグランドオープンに加え、姫路駅北駅前広場やコアゾーン B ブロックの商業施設完成に伴い、基準値と比較して、数値は増加した。

「空き店舗数」については、中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対する家賃補助等をはじめ、商店街以外での街なか創業者に対する支援制度を新たに設け、新規出店者はあるものの空き店舗数は、基準値と変わらない結果となった。

「居住者数」については、駅南土地区画整理事業等をはじめ、他の姫路駅周辺整備事業などにより、街なか居住の魅力が向上することで、民間マンションの建設が進むなど、基準値と比較して、増加した。

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路城のグランドオープンによる来街者の増加とともに、姫路駅北駅前広場の整備完了により、週末を中心に、ほぼイベントで活用されるなど、想定以上に、広場の活用が図られた。

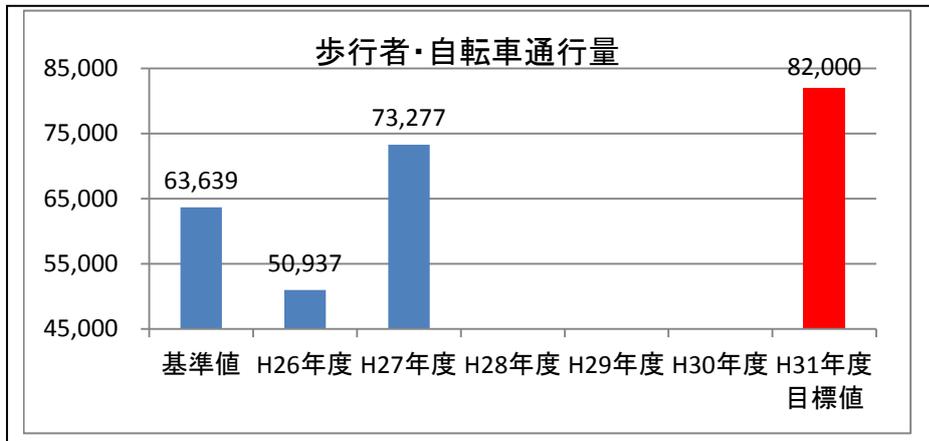
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

今回は本基本計画の初回のフォローアップであるため、前回のフォローアップは実施していない。

#### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P72～P79 参照

##### ●調査結果の推移



年	(単位)
H22 ～25	63,639 人/日 (基準年値)
H27	73,277 人/日
H28	
H29	
H30	
H31	82,000 人/日 (目標値)

※調査方法：歩行者・自転車通行量調査

※調査月：平成 27 年 4 月 29 日実施、5 月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内 7 地点

##### ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

###### ①. キャスティ 21 コアゾーン (A ブロック) 整備事業 (マルイト株)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 29 年度【実施中】
事業概要	国際都市・姫路の魅力をより高める、上質でアメニティ溢れる都市型ホテルを整備する。
事業効果及び進捗状況	資材高騰等の影響はあったものの平成 27 年度は、本市との土地譲渡契約を締結した。今後、平成 29 年度冬頃の施設竣工に向け、平成 28 年度夏頃に建築工事に着手する予定であり、事業完了に向け順調に進行している。

###### ②. キャスティ 21 コアゾーン (B ブロック) 整備事業 (エミス株)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	シネマコンプレックスを核とした商業施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年 7 月 24 日に商業施設 (テラッソ姫路) のオープンにより、通行量が増加するなど、一定の集客効果が認められる。 [歩行者等通行量] (調査地点：テラッソ姫路北西) 994 人 (H27. 4. 29) → 9,000 人 (H28. 4. 29) 今後は、商店街をはじめ、街なかの魅力を高めるとともに、情報発信力を強化することで、施設への来客者を街なかへ誘引する必要がある。

③. キャスティ 21 コアゾーン (C ブロック) 整備事業 (学神戸滋慶学園)

事業完了時期	平成 26 年度～平成 30 年度【実施中】
事業概要	医療系専門学校などを整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度は、許認可協議や施設的设计などを行う。今後、平成 28 年度より建築工事に順次着手し、平成 29 年度には、フィットネスジムなどのサポート施設が、平成 30 年度には、専門学校（医療系学科）と健康生きがい開発棟（高齢者住宅・保育所・クリニック）を供用開始する予定である。

④. 姫路城大天守保存修理完成記念イベント事業（姫路市）

事業完了時期	平成 27 年度【済】
事業概要	姫路城大天守保存修理工事の完成を記念したイベント事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	修理工事が完了し、平成 27 年度来城者数が過去最多の 286 万人となるなど、国内外から多くの方が訪れている。年間を通じ様々なイベントを展開することで、来街者の増加や認知度の向上につなげた。

⑤. コミュニティサイクル社会実験事業（姫路市）

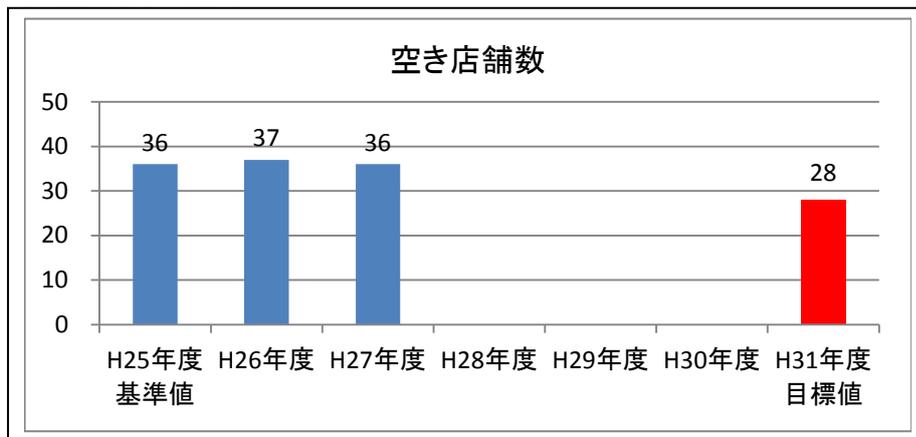
事業完了時期	平成 26 年度～平成 27 年度【済】
事業概要	姫路駅前や姫路城周辺などで、自由に乗り降りできるレンタサイクル（姫ちやり）の社会実験を実施する。
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度に 2 カ月間の社会実験として実施したコミュニティサイクルの社会実験事業を、平成 27 年度は、10 月 10 日から翌 3 月末まで実施し、期間中、9,605 人（14,068 回）が利用した。平成 28 年度は、社会実験の結果を踏まえ、本格運用を開始する予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。今後は、大手前通り（十二所前線以北）再整備事業や案内サイン強化事業などのハード事業に加え、タウン・エリアマネジメントを視野に入れた仕組み・体制づくりや街なか情報発信事業などのソフト事業を総合的に実施することで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

「空き店舗数」 ※目標設定の考え方基本計画 P80～P82 参照

●調査結果の推移



年	(単位)
H25	36 店舗 (基準年値)
H27	36 店舗
H28	
H29	
H30	
H31	28 店舗 (目標値)

※調査方法：現地調査（毎年3月末）

※調査月：平成28年3月末実施、4月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内15商店街

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 中心市街地商店街空き店舗対策事業（姫路市、姫路商工会議所、商店街等）

事業完了時期	平成13年度～平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地商店街内の空き店舗への出店者に対し、家賃補助等を行う。また、外部関係者と連携し、モデル商店街でのテナントミックスやチャレンジショップ実現に向けた事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	創業者に対する支援により、新規出店があるものの、退店もあり、空き店舗数の改善が見られない。ただし、二階町商店街（モデル商店街として支援する）では、兵庫県立大学を中心に外部関係者と連携することで、若い店主同士の結びつきが強化され、青年部が復活するなど、新たな動きが見られる。

②. 街なか起業家支援事業（姫路市）

事業完了時期	平成27年度～平成31年度【実施中】
事業概要	街なかにおける起業家に対する支援事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	中心市街地商店街以外で創業等により新たに店舗を出店する方に対し、内装工事費等の一部を助成する「まちなか創業支援制度」を設ける。平成27年度は、女性創業者2名に対し支援するなど、今後の、街なかの魅力向上が期待できる。

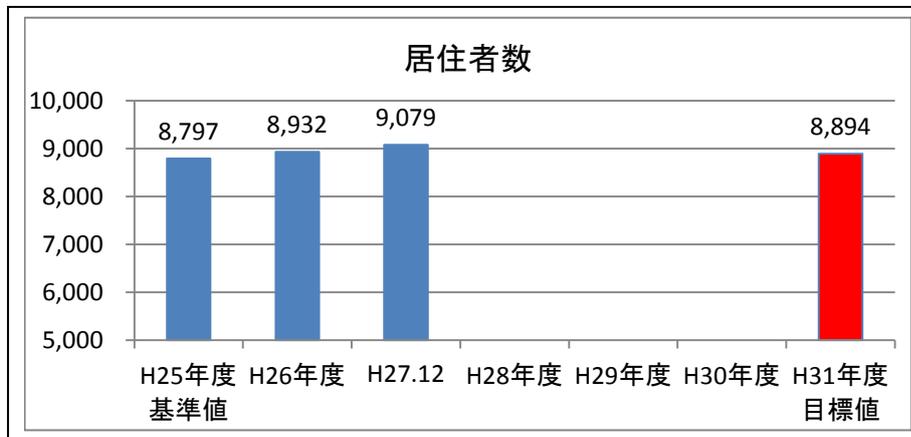
## ●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地商店街空き店舗対策事業をはじめ、新たに「まちなか創業支援制度」を設け、商店街以外での街なか創業者に対し支援するなど、商店街の活性化や街なかの魅力づくりに取り組んでいるものの、空き店舗数に改善が見られない。しかしながら、二階町商店街では、兵庫県立大学を中心に外部関係者と連携することで、若い店主同士の結びつきが強化され、青年部が復活するなど、新たな動きが見られる。

今後も、「新陳代謝の促進による街なか（商店街）の活性化」の目標のもと、計画記載事業だけではなく、より一層、各種関係団体との連携を図りながら、若くてやる気あふれる起業家や繁盛店づくりを引き続き支援していきたい。

「居住者数」※目標設定の考え方基本計画 P83～P85 参照

## ●調査結果の推移



年	(単位)
H25	8,797 人 (基準年値)
H27	9,079 人
H28	
H29	
H30	
H31	8,894 人 (目標値)

※調査方法：中心市街地内の住民基本台帳登録人口（毎年3月末）

※調査月：平成28年3月末実施、5月とりまとめ ※最新値は平成27年12月末現在

※調査主体：姫路市

※調査対象：中心市街地内居住者

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 駅南土地区画整理事業（姫路駅南西地区）（土地区画整理事業）（姫路市）

事業完了時期	平成19年度～平成28年度【実施中】
事業概要	姫路駅南西部の工場跡地等を都心部にふさわしい計画的な市街地として再生することを目的に、都市基盤施設の整備改善を行い、宅地の利用増進を図る。
事業効果及び進捗状況	平成27年度は、支障物件の移転に尽力したため、道路整備が進まなかったが、平成28年度は、一部の支障物件の移転もクリアされたことから、道路の築造工事等を進めたい。また、当該事業とともに、他の姫路駅周辺整備事業等により、当該事業エリア周辺で、民間マンションの建設が進むなど、街なか居住人口の増加が図られている。

## ②. 姫路駅周辺土地区画整理事業（姫路市）

事業完了時期	平成元年度～平成 33 年度【実施中】
事業概要	JR 姫路駅を中心とする南北市街地の一体化を図る交通体系の確保、都市計画道路、公園、河川等の公共施設の整備改善を行い、新都心拠点としてふさわしい街区を形成し、多様な立地を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度は、周辺工事等の遅れや仮設道路の通行止に伴う地元及び関係機関との協議に時間を要したため、一部道路の供用開始が遅れているが、平成 28 年 7 月には供用開始予定であるなど、事業完了に向け順調に進行している。また、当該事業の進行により、エリア内に民間マンションが建設されるなど、街なか居住人口の増加が図られている。

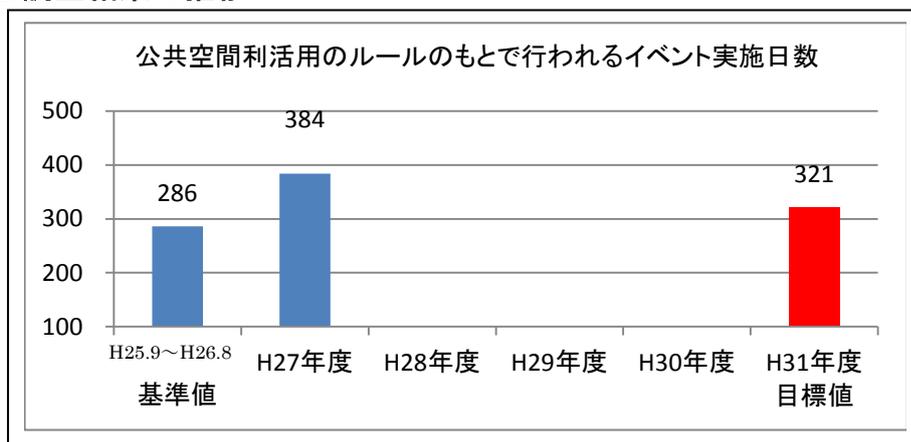
### ●目標達成の見通し及び今後の対策

駅南土地区画整理事業や姫路駅周辺土地区画整理事業はもちろん、他の姫路駅周辺整備事業等により、街なか居住の魅力が向上することで、民間マンションの建設が進むなど、主要事業は概ね順調に推移しており、目標達成は可能だと思われる。今後は、商店街をはじめ、各商業施設の魅力を高めるとともに、街なかを回遊してもらえようような取り組みを図ることで、中心市街地内全体に効果を波及させ、さらに実績を伸ばしていきたい。

#### 「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」

※目標設定の考え方基本計画 P86～P88 参照

### ●調査結果の推移



年	(単位)
H25.9 ～H26.8	286 日/年 (基準年値)
H27	384 日/年
H28	
H29	
H30	
H31	321 日/年 (目標値)

※調査方法：施設管理者調査（報告）等（毎年 3 月末）

※調査月：平成 28 年 3 月末実施、4 月取りまとめ

※調査主体：姫路市

※調査対象：姫路駅北にぎわい交流広場（姫路駅北駅前広場）、大手前公園、中心市街地内 15 商店街  
（各 3 エリアで行われるイベント実施日数を足し合わせる）

## ●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

### ①. 姫路駅北駅前広場活用事業（姫路市、市民団体、商店街等）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	市民による姫路駅北駅前広場（姫路駅北にぎわい交流広場）の積極的な活用（継続的なイベントの開催）を促進することで、街なかへの集客力・回遊性の向上につなげる。
事業効果及び進捗状況	姫路城がグランドオープンを迎えるとともに、姫路駅北駅前広場の整備完了により、市民・観光客によって憩いの場となったことから、平成 27 年度は、週末を中心に、イベント等で 240 日活用されるなど、想定以上に、広場の活用が図られている。

### ②. 商店街にぎわい創出事業（姫路市、商店街、民間等）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	商店街等が、商店街の活性化のために実施する賑わい創出事業を展開する。
事業効果及び進捗状況	商店街に対する各種支援メニューに加え、市民団体等が商店街でソフト事業を実施する場合にも支援することで、商店街の魅力向上を図る。また、二階町商店街を中心に、兵庫県立大学と連携し、活性化事業を展開することにより、若い店主を中心に、店舗間で連携が生まれている。 [商店街等に対する各種支援件数]（平成 27 年度） ・ イベント事業 8 件 ・ がんばるまちなか商店街ソフト事業 1 件 ・ まちなか会場賑わいづくり事業 3 件

### ③. 大手前通り（十二所前線以北）再整備事業（姫路市）

事業完了時期	平成 27 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	姫路駅から姫路城を結ぶ大手前通り（十二所前線以北）を再整備することで、駅からお城までの連続した高質空間を創出する。
事業効果及び進捗状況	平成 28 年度から実施設計策定・工事開始に向け、官民一体となって、大手前通りの利活用を含め、整備計画を議論している。また、沿道事業者を中心に、道路空間（公共空間）を活用する動きが見られる。今後、活用主体が組織された場合、既に整備された姫路駅北駅前広場や周辺商店街との連携により、街なかの回遊性向上が期待できる。

## ●目標達成の見通し及び今後の対策

「公共空間利活用のルールのもとで行われるイベント実施日数」については、姫路城のグランドオープンによる来街者の増加とともに、姫路駅北駅前広場の整備完了により、週末を中心に、ほぼイベントで活用されるなど、想定以上に、広場の活用が図られており、目標達成は可能だと思われる。

今後は、いかに駅前の来訪者を街なかへ誘引していくかを念頭に、タウン・エリアマネジメントの運営に向けて組織・人材育成を戦略的に進めるべく、活用主体のあり方等について、中心市街地活性化協議会をはじめ、街なかの関係者と協議していきたい。